

5.1.2 高密度電気探査結果とボーリング調査結果との対比

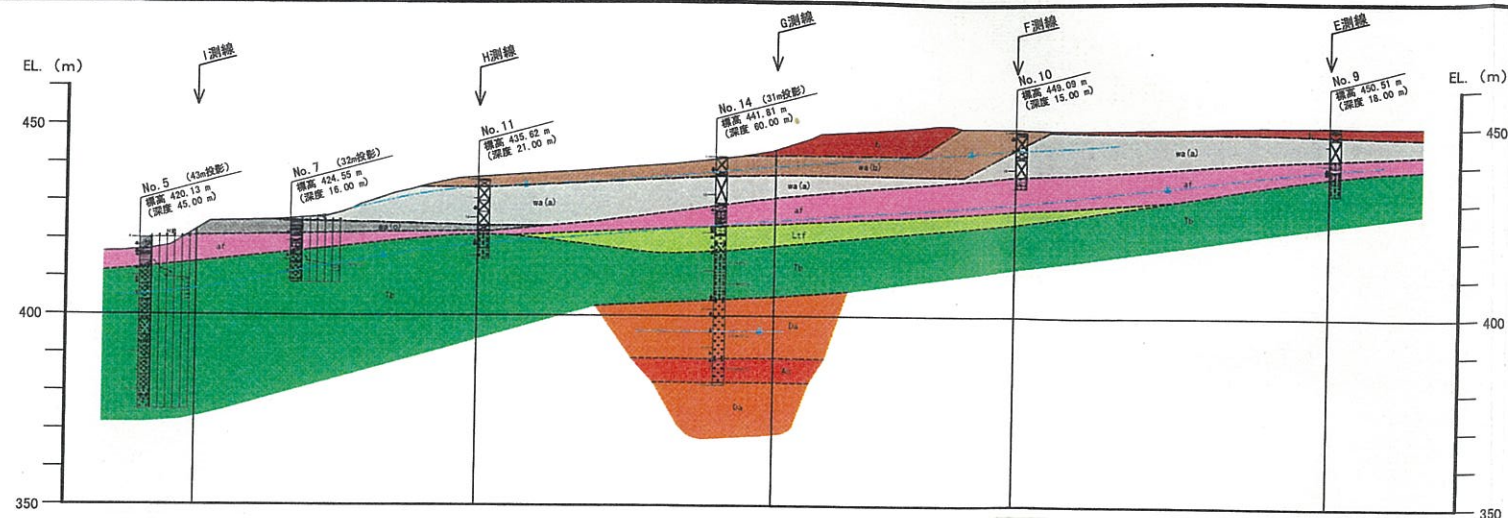
高密度電気探査結果とボーリング調査結果の対比を行ったものを図 5.1.8～図 5.1.12 に示し、概要を以下に示す。

- ① 高密度電気探査の低比抵抗帯（赤色部）は主に廃棄物に相当し、わずかに降下火砕物（af）、一部凝灰岩・火山礫凝灰岩が分布する範囲に相当し、凝灰角礫岩が分布する範囲には相当していない。
- ② 高密度電気探査の比較的low比抵抗帯（黄色部）が降下火砕物や凝灰角礫岩に相当する部分（例えば、B 測線、No.12 付近）では、降下火砕物（砂質火山灰）の汚染が確認された（No.12 孔の深度 9.0m の分析結果 No.12-3 参照）。
- ③ 高密度電気探査で比較的low比抵抗帯（黄色部）が凝灰角礫岩に相当する部分（例えば、A 測線、No.14 付近）では、土壌の汚染は認められなかった（No.14 孔の深度 25.0m の分析結果 No.14-6 参照）。
- ④ ②や③およびボーリング調査から、高密度電気探査で比較的low比抵抗帯（黄色部）を示す箇所には降下火砕物のうち、透水性が低いローム層は汚染されず、透水性が高い砂質火山灰層や軽石層が汚染されている可能性が高い。

以上のように、高密度電気探査による低比抵抗帯は、ボーリング調査による廃棄物の分布範囲とよく一致することから、高密度電気探査結果を平面的な廃棄物の分布と読み替えることが可能と考えた。

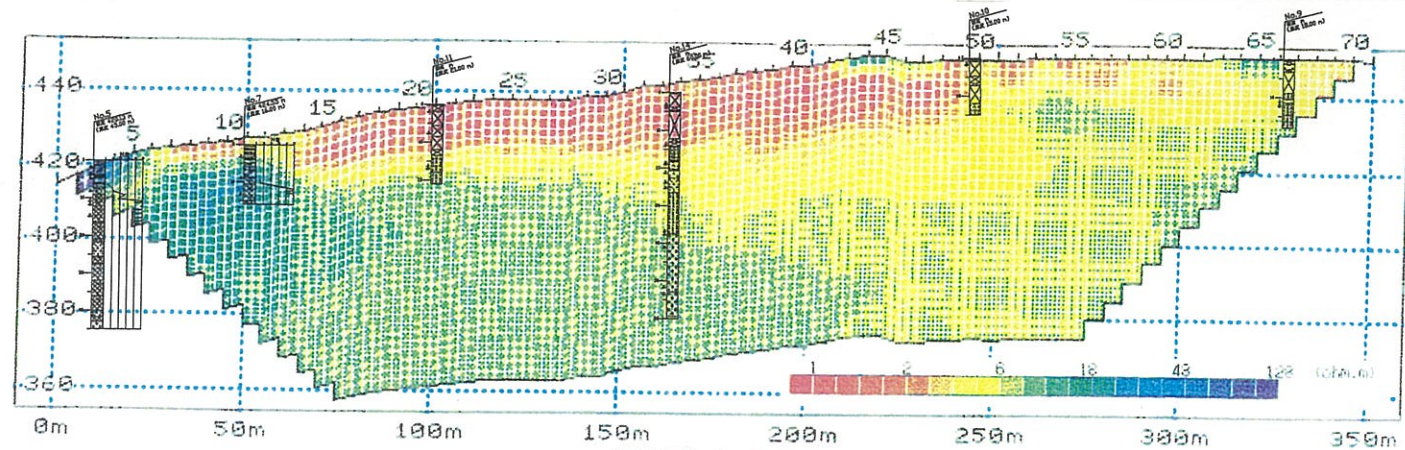
本調査地においては、高密度電気探査結果の低比抵抗帯を廃棄物層と考え、その分布とボーリング調査結果から後述する廃棄物の量を推定している。

また、現調査段階では、地すべり面の存在を実証できる調査結果は出ていない。したがって、基盤岩（凝灰角礫岩、デイサイト質溶岩）中の地すべり面の位置については、今後の調査課題（底面遮水層としての基盤岩の透水性把握）を明確にする目的から、仮に地すべり（高透水ゾーンを形成しやすい要因）が存在するとした場合に、もっとも存在する可能性の高い位置を示している。

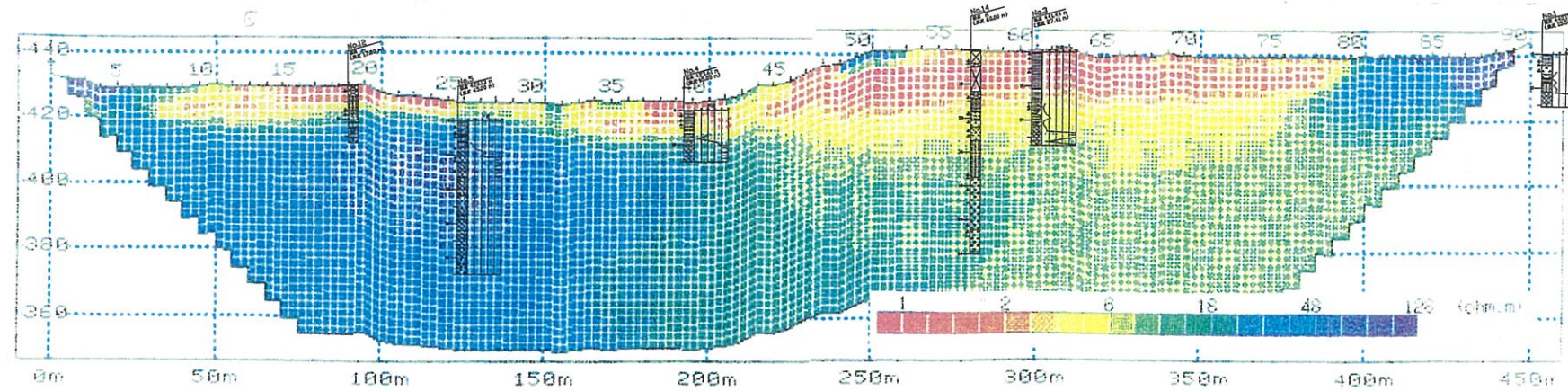
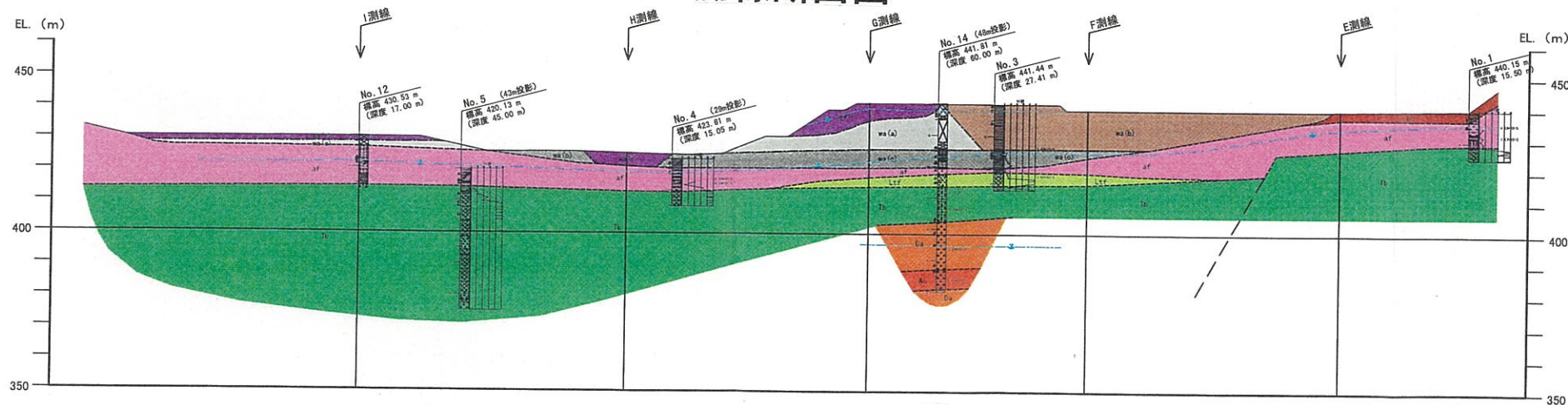


地質時代		地質	記号	
新 生 紀	被 覆 層	盛土	b	
		廃棄物	パーク片, 堆肥 主体	Wa (b)
			焼却灰 主体	Wa (a)
			RDF様物 主体	Wa (r)
			汚泥 主体	Wa (o)
	降下火砕物	af		
新 第 三 紀	岩 盤	火山礫凝灰岩	Ltf	
		凝灰角礫岩	Tb	
		デイサイト	Da	
		安山岩質集塊岩	An	

上図：地質断面図
下図：高密度電気探査解析断面図

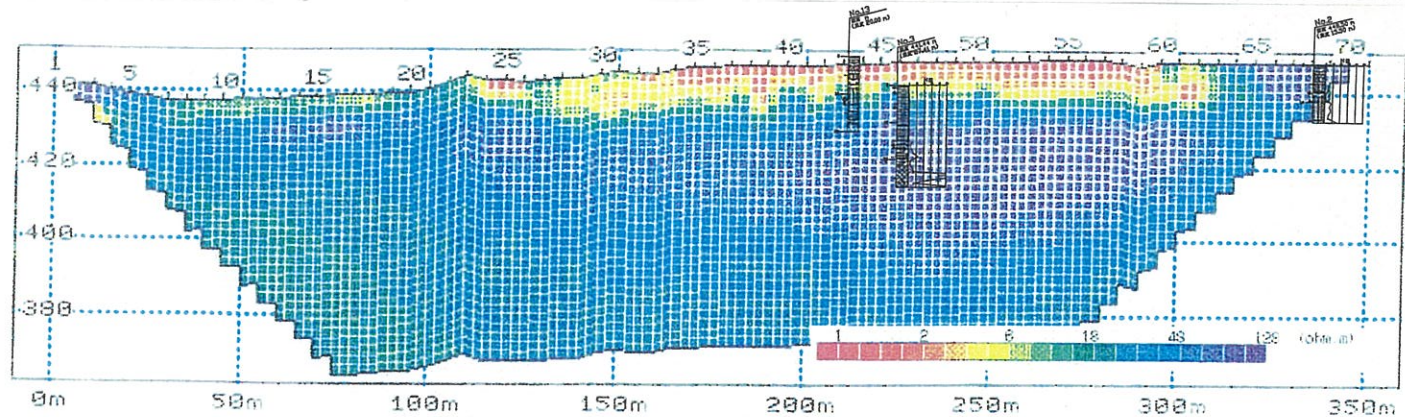
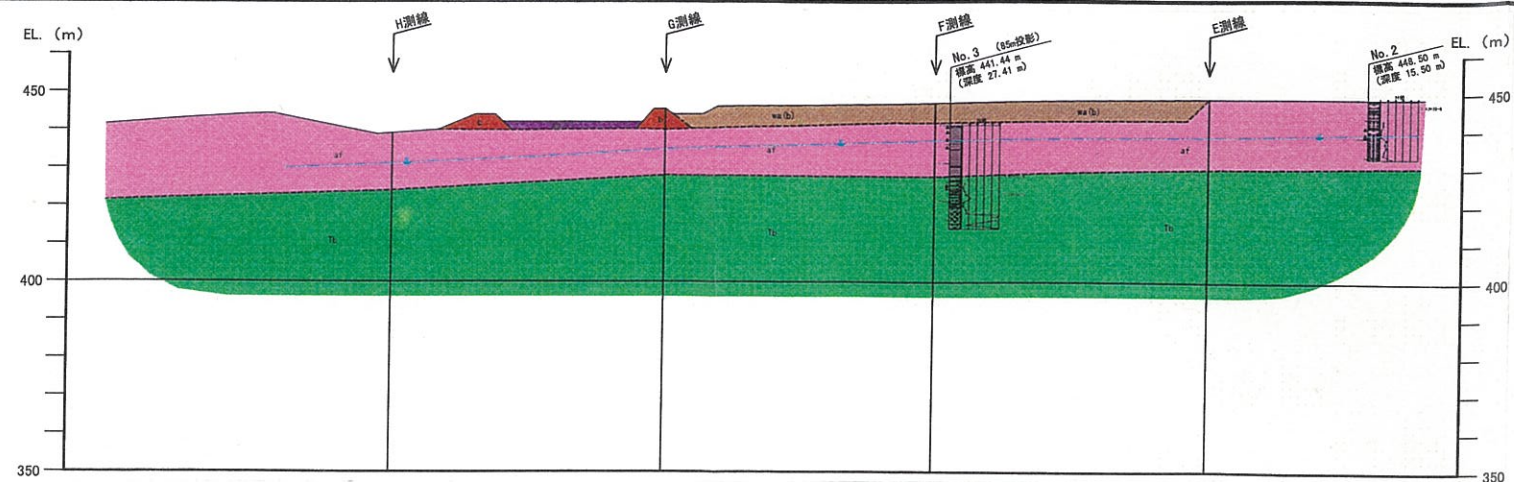


A 測線断面図

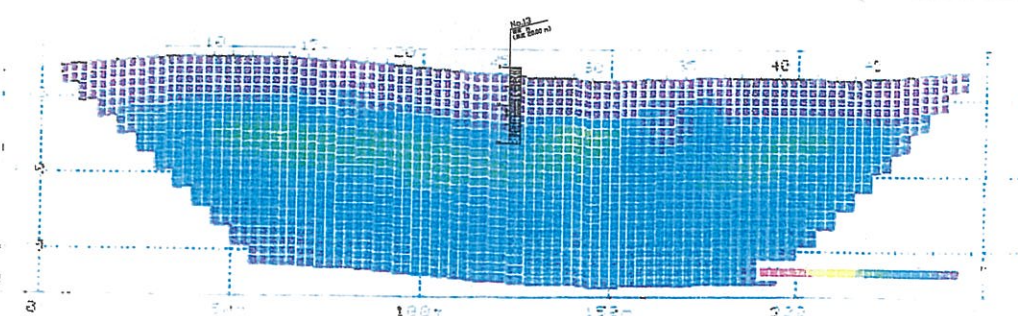
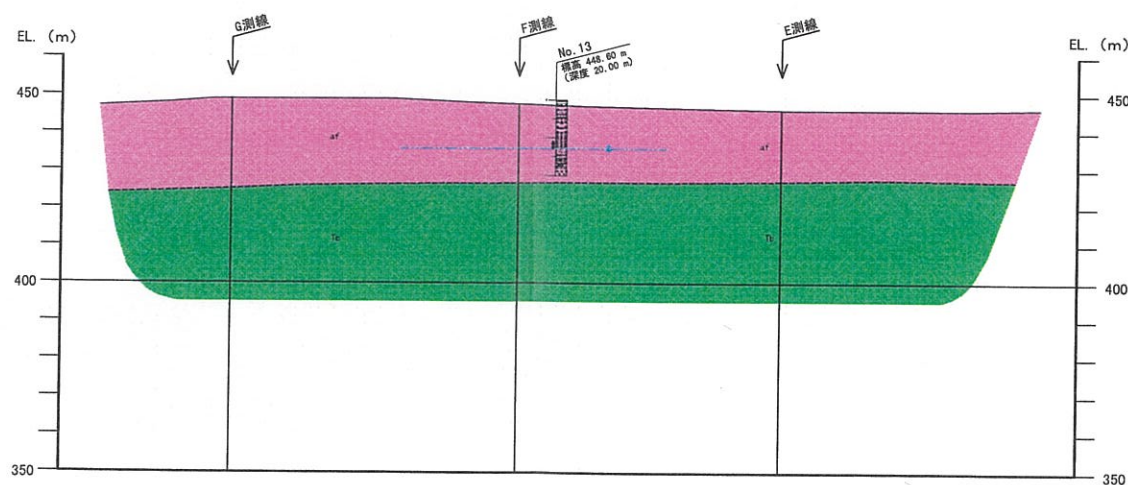


B 測線断面図

図 5. 1. 8 高密度電気探査結果とボーリング調査結果の対比図 (S=1:2,000)



C 測線断面図



D 測線断面図

凡 例

地質時代	地 質		記 号	
新 生 紀	被 覆 層	盛 土	b	
		廃 棄 物	パーク片, 堆肥 主体	Wa (b)
			焼却灰 主体	Wa (a)
			RDF様物 主体	Wa (r)
	汚泥 主体	Wa (o)		
	降下火砕物	af		
新 第 三 紀	岩 盤	火山礫凝灰岩	Ltf	
		凝灰角礫岩	Tb	
		デイサイト	Da	
		安山岩質集塊岩	An	

上図：地質断面図

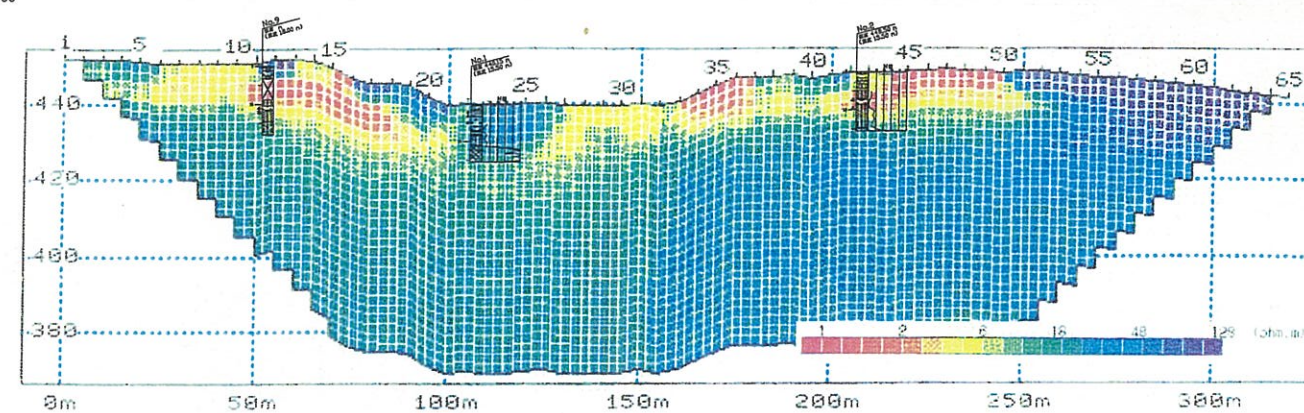
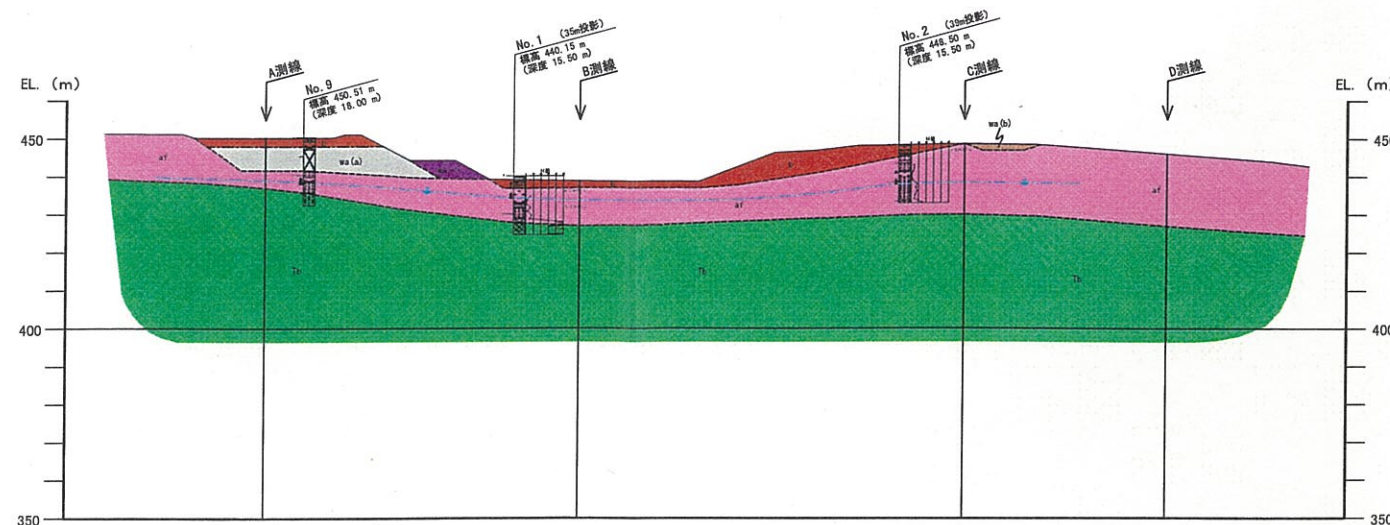
下図：高密度電気探査解析断面図

図 5. 1. 9 高密度電気探査結果とボーリング調査結果の対比図 (S=1:2,000)

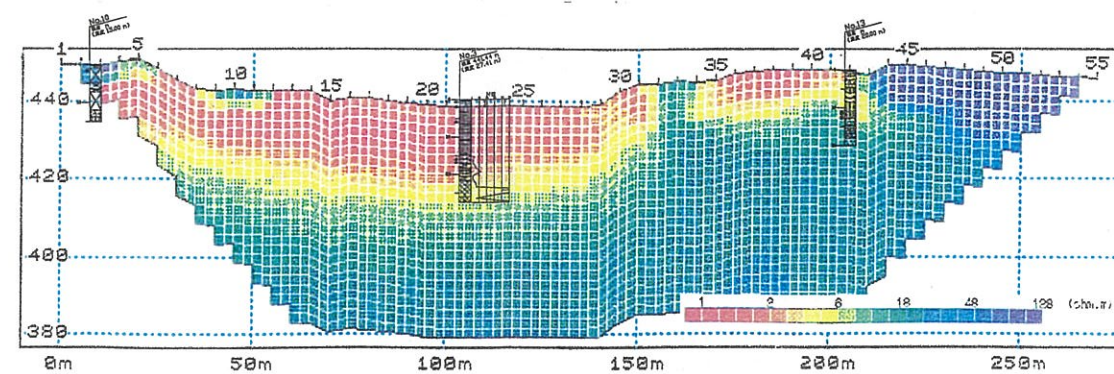
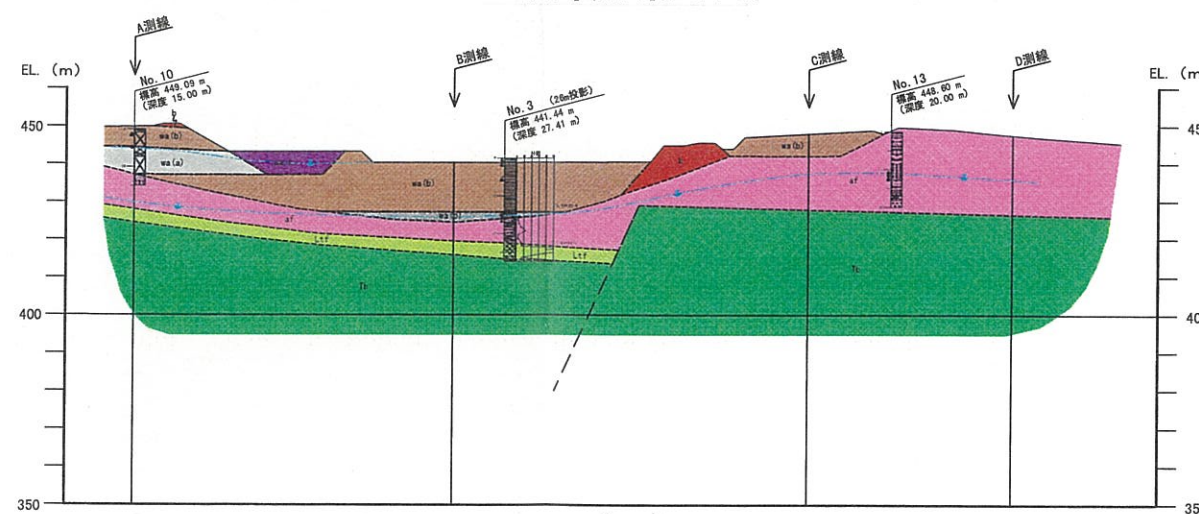
凡例

地質時代	地質		記号	
新 生 紀	被 覆 層	盛土	b	
		廃棄物	パーク片, 堆肥 主体	Wa (b)
			焼却灰 主体	Wa (a)
			RDF稼物 主体	Wa (r)
			汚泥 主体	Wa (o)
降下火砕物	af			
新 第 三 紀	岩 盤	火山礫凝灰岩	Ltf	
		凝灰角礫岩	Tb	
		デイサイト	Da	
		安山岩質集塊岩	An	

上図：地質断面図
下図：高密度電気探査解析断面図

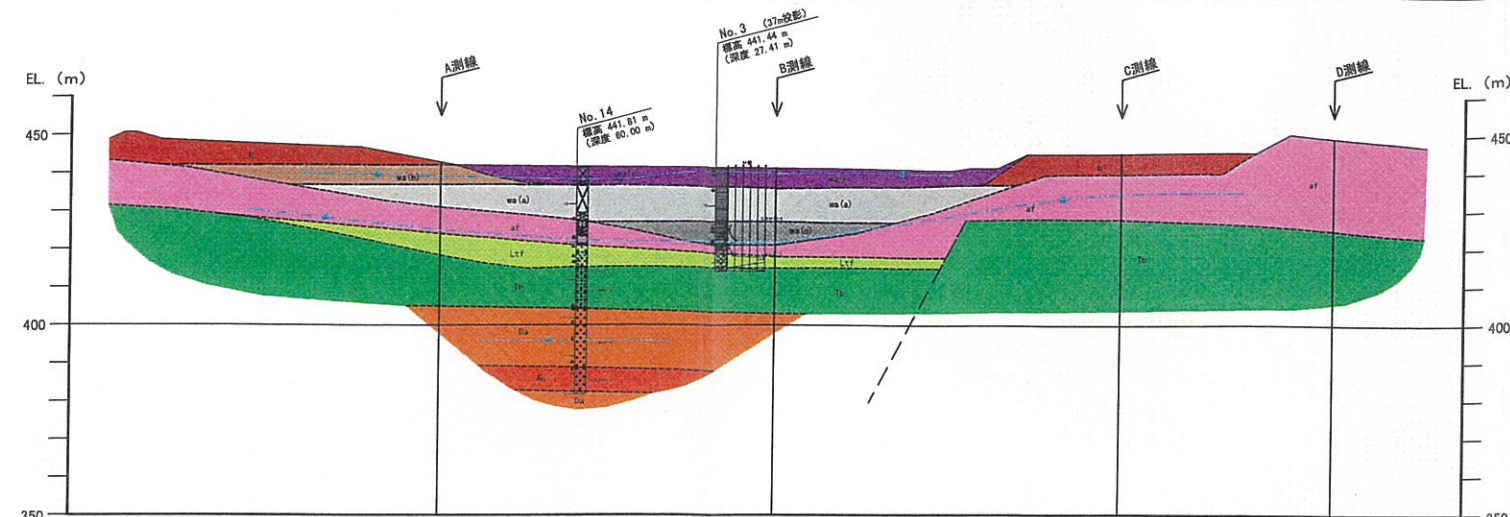


E 測線断面図



F 測線断面図

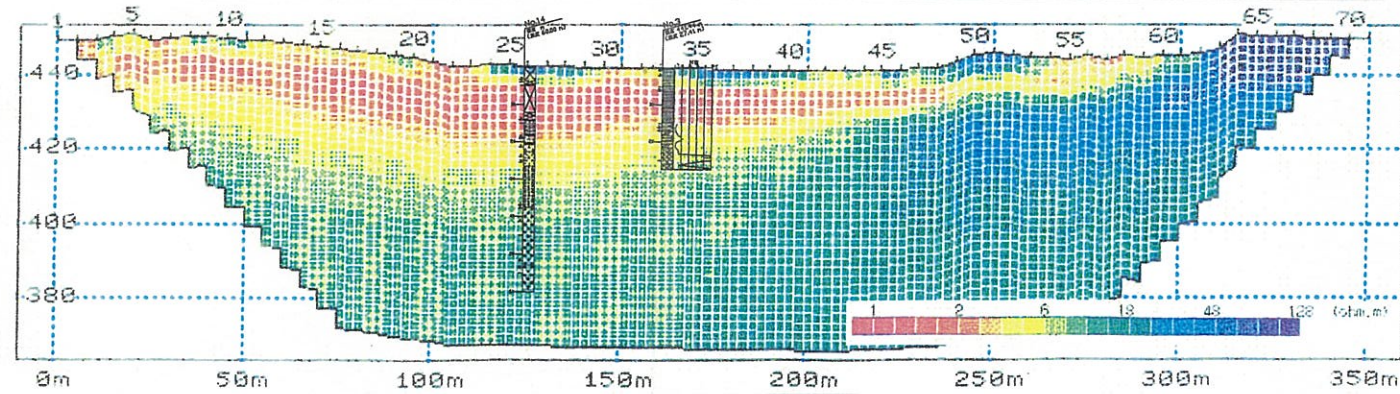
図 5. 1. 10 高密度電気探査結果とボーリング調査結果の対比図 (S=1:2,000)



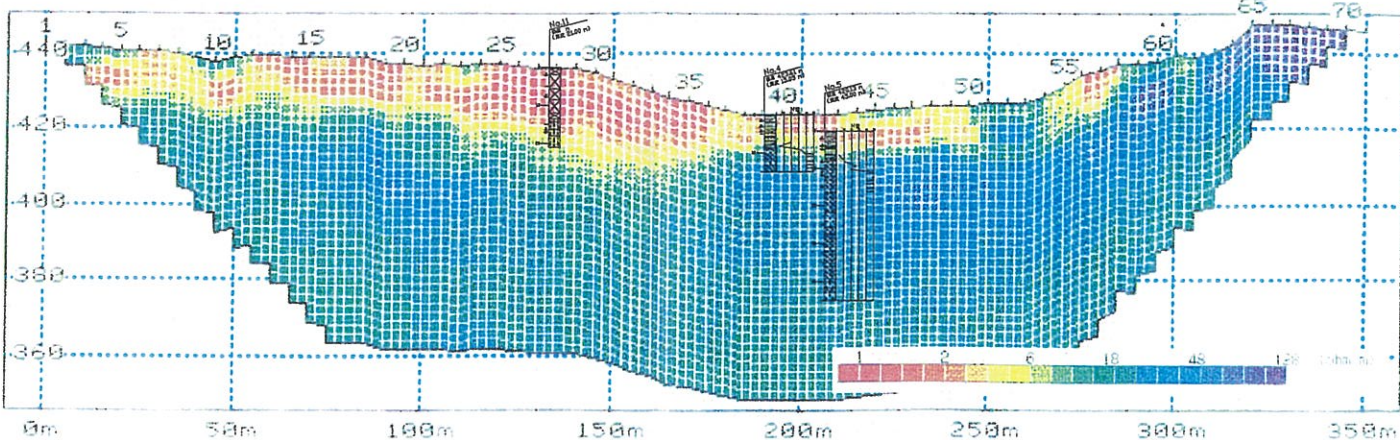
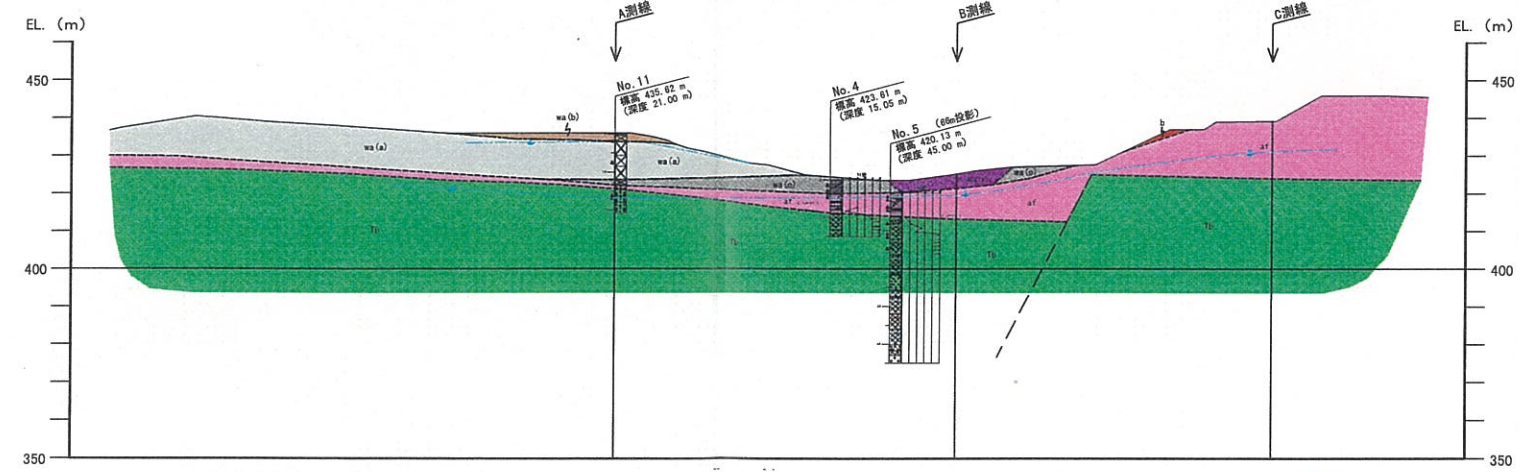
凡 例

地質時代	地 質		記 号	
新 生 紀	被 覆 層	盛 土	b	
		廃 棄 物	パーク片, 堆肥 主体	Wa (b)
			焼却灰 主体	Wa (a)
			RDF様物 主体	Wa (r)
			汚泥 主体	Wa (o)
新 第 三 紀	岩 盤	降下火砕物	af	
		火山礫凝灰岩	Ltf	
		凝灰角礫岩	Tb	
		デイサイト	Da	
		安山岩質集塊岩	An	

上図：地質断面図
 下図：高密度電気探査解析断面図



G 測線断面図



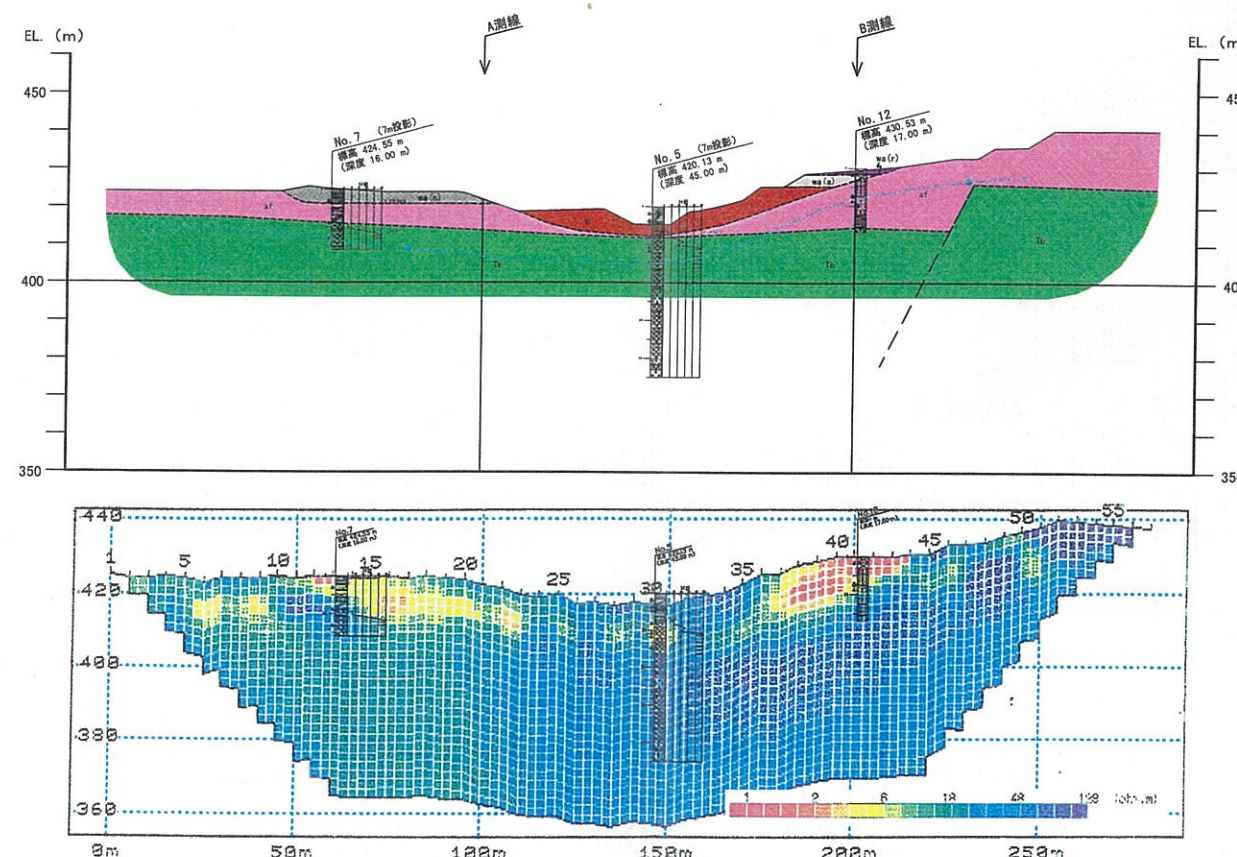
H 測線断面図

図 5. 1. 11 高密度電気探査結果とボーリング調査結果の対比図 (S=1:2,000)

凡 例

地質時代	地 質		記 号	
新 生 紀 代	被 覆 層	盛 土	b	
		廃 棄 物	バーク片, 堆肥 主体	Wa (b)
			焼却灰 主体	Wa (a)
			RDF様物 主体	Wa (r)
			汚泥 主体	Wa (o)
	降下火砕物	af		
	新 第 三 紀	岩 盤	火山礫凝灰岩	Ltf
凝灰角礫岩			Tb	
デイサイト			Da	
安山岩質集塊岩			An	

上図：地質断面図
下図：高密度電気探査解析断面図



I 測線断面図

図5. 1. 12 高密度電気探査結果とボーリング調査結果の対比図 (S=1:2,000)